

雅楽だより

《目次》

●御即位と雅楽	遠藤徹	1	●「雅楽の練習をしていたら…」	7
●上牧・鵜殿ヨシ原 その後		1	●情報欄	11
●新しい視点から雅楽を語る			●新刊本「吹いてみたい筆葉」	12
ペートーベン「運命」	安富歩	6	●雅楽CD「百花 繪乱」	12

第58号 2019年(令和元年)7月
発行 雅楽協議会

御即位と雅楽

遠藤徹(東京学芸大学教授)

五月一日に天皇陛下の踐祚と改元が行われ令和の新しい時代がはじまりました。今秋には即位礼と大嘗祭が行われます。御即位と雅楽について読者の方からご質問が寄せられたとのことですので、ご参考までに宮内庁及び内閣府から公表されている資料と私の手元にある資料をもとに、御即位関連の儀式とそこで奏される雅楽についてまとめてみました。

御即位には長い歴史がありますので、儀式の内容や奏される雅楽についても歴史的背景の変遷があります。近代以降は明治四十二年(一九〇九)に公布された「登極令」において詳しい規程が定められ、大正の御即位、昭和の御即位はこれに基づいて行われました。「登極令」は昭和二十二年(一九四七)に廃止されましたが、戦後の「皇室典範」では「皇位の継承があつたときは、即位の礼を行う」という一文があるのみで、儀式の詳細は記していないため、平成の御即位も「登極令」に準じて行われました。今回も平成三十年四月三日の閣議決定で「平成の御代替わりに伴い行われた式典は、現行憲法下において十分な検討が行われた上で挙行されたものであることから、今回の各式典についても、基本的な考え方や内容は踏襲されるべきものである」とする基本方針が示されています。

宮内庁及び内閣府の発表(五月現在)によると、今回の即位礼関係の儀式は以下の日程となっております。「」は行われる場所です。雅楽が奏される行事には雅楽として内容を注記しました。なお、五月現在「齋田点定の儀」以降の行事の次第は公表されていないため、「齋田点定の儀」以降の行事は「登極令」や平成の例をもとに記しています。実際には

上牧・鵜殿ヨシ原 その後 木材チップはつる草を抑え込んだ!?

「雅楽だより」前号で、筆葉の蘆舌に使用するヨシが激減してきていることから、「早急になんとか対策を取らないと筆葉用ヨシは、採れなくなってしまう」。なので地元の方々などが筆葉用ヨシの復活に向けた対策として、三つの方法を実行に移すことになったことを書きました。

その対策の一つは「木材のチップを敷く」というもので、つる草などの雑草駆除として、木材のチップを5m四方に約20cmの厚みで敷き、雑草の種に太陽の光が当たるのを遮断し



木材チップを敷いた箇所 雑草などは生えていない。2019年5月9日撮影

多少異なる場合があることを予めご了承下さい。※は筆者による注です。
(2ページ上段へつづく)



萬歳楽

令和元年

五月一日 劍璽等承継の儀

【宮殿】

(天皇が皇位を継承された証として劍璽・御璽・国璽を承継される儀式)

即位後朝見の儀

【宮殿】

(天皇が即位後初めて公式に三権の長をはじめ国民を代表する人々に会われる儀式)

五月一日～三日

賢所

【賢所】

(賢所に皇位を継承されたことを奉告する儀式)

五月一日 皇霊殿神殿に奉告の儀

【皇霊殿・神殿】

(皇霊殿神殿に皇位を継承されたことを奉告する儀式)

五月八日 賢所に期日奉告の儀

【賢所】

(賢所に天皇が即位礼及び大嘗祭を行う期日を奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌 皇霊殿神殿に期日奉告の儀

【皇霊殿・神殿】

(皇霊殿神殿に天皇が即位礼及び大嘗祭を行う期日を奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌 神宮神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に勅使発遣の儀

【宮殿】

(神宮並びに神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に即位礼及び大嘗祭を行う期日を奉告し幣物を供えるために勅使を派遣される儀式)

秋

め関係諸員のお祓いをする行事) 齋田拔穂の儀

【齋田】 (齋田で新穀の収穫を行うための儀式)

五月十日

神宮に奉幣の儀

【伊勢神宮】

(神宮に即位礼及び大嘗祭を行う期日を勅使が奉告し幣物を供える儀式)

神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に奉幣の儀

【各山陵】

(神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に即位礼及び大嘗祭を行う期日を勅使が奉告し幣物を供える儀式)

【雅楽】神饌を供する間・幣物及び神饌を撤する間に奏楽

齋田点定の儀

【神殿】

悠紀及び主基の両地方(齋田を設ける地方)を定めるための儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌 ※悠紀地方は栃木県、主基地方は京都府に決定しました。宮内庁楽部が両地方の民謡や芸能を調査し、新たに悠紀、主基の風俗歌舞を作曲・作舞することになります。

別途決定

大嘗宮地鎮祭

【皇居東御苑】

(大嘗宮を建設する予定地の地鎮祭)

齋田拔穂の儀の前日 齋田拔穂前一日大祓

齋田拔穂の儀の前日、抜穂使始

別途決定

悠紀主基両地方新穀供納

【皇居】 (悠紀主基地方の齋田で収穫された新穀の供納をする行事)

十月二三日 即位礼当日賢所大前の儀

【賢所】

(即位礼の当日、賢所に天皇が即位礼を行うことを奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌 即位礼当日皇霊殿神殿に奉告の儀

【皇霊殿・神殿】

(即位礼の当日、皇霊殿及び神殿に天皇が即位礼を行うことを奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

即位礼正殿の儀

【宮殿】

(天皇が即位を公に宣明されるとともに、その即位を内外の代表がことほぐ儀式)

祝賀御列の儀

【宮殿】 (天皇が即位礼正殿の儀の終了後、広く国民にご即位を披露され、祝福を受けられる儀式)

十月二三日、二五日、二九日、三一日

饗宴の儀

【宮殿】 (即位を披露され、祝福を受けられる祝宴)

十一月十三日 大嘗祭前一日鎮魂の儀

【皇居】 (大嘗祭の前日、すべての行事が滞りなく無事に行われるよう天皇始

め関係諸員のお祓いをする行事)

大嘗祭前二日大祓

【皇居】 (大嘗祭の前日、すべて

の行事が滞りなく無事に行われるよう天皇始

め関係諸員のお祓いをする行事)



太平楽

※雅楽 平成の例では「登極令」に準じて舞楽「萬歳楽」「太平楽」が奏されました。その他、「登極令」には規程はありませんが、管絃で「五常楽」「難徳」「君が代」等も奏されました。

十月三日 内閣総理大臣夫妻主催晩餐会

十一月八日 神宮に勅使発遣の儀

【宮殿】 (神宮に大嘗祭を行うことを奉告し幣物を供えるために勅使を派遣される儀式)

十一月十二日 大嘗祭前二日御禊

【皇居】 (大嘗祭の前二日、天皇及び皇后のお祓いをする行事)

大嘗祭前二日大祓

【皇居】 (大嘗祭の前二日、皇族始め関係諸員のお祓いをする行事)

十一月十三日 大嘗祭前一日鎮魂の儀

【皇居】 (大嘗祭の前日、すべての行事が滞りなく無事に行われるよう天皇始

め関係諸員のお祓いをする行事)

大嘗祭前二日大祓

【皇居】 (大嘗祭の前日、すべての

の行事が滞りなく無事に行われるよう天皇始

め関係諸員のお祓いをする行事)

大嘗祭前二日大祓

【皇居】 (大嘗祭の前日、すべての

の行事が滞りなく無事に行われるよう天皇始

め関係諸員のお祓いをする行事)

め関係諸員の安泰を祈念する儀式)

大嘗祭前一日大嘗宮鎮祭

【皇居東御苑】

(大嘗祭の前日、大嘗宮の安泰を祈念する行事)

十一月十四日 大嘗祭 当日神宮に奉幣の儀

【伊勢神宮】

(大嘗祭の当日、神宮に大嘗祭を行うことを勅使が奉告し幣物を供える儀式)

大嘗祭当日賢所大御饌供進の儀

【賢所】

(大嘗祭の当日、賢所に大嘗祭を行うことを奉告し御饌を供える儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

大嘗祭当日皇霊殿神殿に奉告の儀

【皇霊殿・神殿】

(大嘗祭の当日、皇霊殿及び神殿に大嘗祭を行うことを奉告する儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

大嘗宮の儀 【皇居東御苑】
(天皇が即位の後、大嘗宮の悠紀殿及び主基殿において初めて新穀を皇祖及び天神地祇に供えられ、自らも召し上がり、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝し、祈念される儀式)

十一月十四日 悠紀殿供饌の儀

十一月十五日 主基殿供饌の儀

※雅楽 平成の例では悠紀殿、主基殿、廻立殿などからなる大嘗宮

(仮設の斎場)が皇居東御苑に造営され、儀式の中で稲・春歌、

国柄の古風、悠紀・主基の風俗歌、神楽歌が奏されました。稲春歌、悠紀・主基の風俗歌は、歌人によつて献進された和歌に宮内庁楽部で新たに作曲したものです。

稲春歌は神前に供する稲をつくときに歌われる歌です。

十一月十六日 大嘗祭後一日大嘗宮鎮祭

【皇居東御苑】

(大嘗祭の翌日、大嘗宮の安寧を感謝する行事)

十一月十六日、十八日 大饗の儀 【宮殿】

(大嘗宮の儀の後、天皇が参列者に白酒黒酒及び酒肴を賜り、ともに召し上げる饗宴)

※雅楽 古例の豊明節会に相当するもので、平成の例でも「登極令」に準じて久米舞、悠紀・主基の風俗舞、五節舞が奏されました。

即位礼

【伊勢神宮】
(即位礼及び大嘗祭の後、神宮に即位礼及び大嘗祭後神武天皇山陵及び昭和三皇以前四代の天皇山陵に親謁の儀 【各山陵】

(即位礼及び大嘗祭の後、神武天皇が拝礼される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

大嘗宮の儀 【皇居東御苑】
(天皇が即位の後、大嘗宮の悠紀殿及び主基殿において初めて新穀を皇祖及び天神地祇に供えられ、自らも召し上がり、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝し、祈念される儀式)

十一月十四日 悠紀殿供饌の儀

十一月十五日 主基殿供饌の儀



五節の舞 写真提供 森本美恵

皇山陵及び昭和三皇以前四代の天皇山陵に天皇が拝礼される儀式)

【雅楽】神饌及び幣物を供する間・撤する間に奏楽

京都に行幸の際 茶会 【京都御所】
(即位礼及び大嘗祭の後、京都に行幸の際、古来皇室に御縁故の深い近畿地方の各界の代表等を招いて行われる茶会)

神宮及び各山陵に親謁の後

即位例及び大嘗祭後賢所に親謁の儀 【賢所】
(即位礼及び大嘗祭の後、賢所に天皇が拝礼される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

即位例及び大嘗祭後皇霊殿神殿に親謁の儀 【皇霊殿・神殿】
(即位礼及び大嘗祭の後、皇霊殿及び神殿に天皇が拝礼される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

即位礼及び大嘗祭の後賢所御神楽

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

【新撰楽譜】(源博雅撰)に収められています。中世に大嘗祭が行われなかった時期には一時中絶しましたが、江戸中期に再興されて今日に至っています。

(2) 大嘗祭のみに奏される歌舞

【賢所】
(即位礼及び大嘗祭の後、賢所に御神楽を奏する儀式)
【雅楽】神楽歌
大嘗宮の撤去後 大嘗祭後大嘗宮地鎮祭
【皇居東御苑】
(大嘗祭の後、大嘗宮を撤去した跡地の地鎮祭)

以上記した御即位と雅楽を簡単にまとめると、一連の儀式で奏される御即位に特有の雅楽は以下のものになります。
①大嘗祭用の歌舞
(1) 大嘗祭用に新作されるもの
稲春歌、悠紀・主基の風俗歌舞
悠紀国(地方)、主基国(地方)は大嘗祭で供する新穀を献上する国郡(地方)で亀卜によつて決められます。平成の御即位では悠紀は秋田県、主基は大分県でしたが、今回は栃木県と京都府になりました。稲春歌、悠紀・主基の風俗歌舞は、歌人によつて献進された和歌に宮内庁楽部で新たに作曲・作舞するもので、作曲・作舞は、数名ずつの悠紀グループと主基グループに分かれて行うとのことですが、悠紀・主基の風俗歌舞は平安初期に新作が慣例になり、仁明天皇の承和の大嘗祭のとき「悠紀作物」「主基作物」として『新撰楽譜』(源博雅撰)に収められています。中世に大嘗祭が行われなかった時期には一時中絶しましたが、江戸中期に再興されて今日に至っています。

国栖の古風、久米舞、五節舞

国栖は吉野の地域の先住民で、国栖舞は応神天皇の吉野宮行幸に際して、国栖が酒を献じて歌った後、独特の所作を行ったもの由来します。宮廷儀礼に取り入れられて以降、元日節会、白馬節会、踏歌節会、豊明節会、大嘗会などに奏されました(『延喜式』等)。中世に中絶しますが江戸時代に再興され、近代の改訂を経て現在は大嘗祭のみに「国栖の古風」として奏されます。

久米舞は古代の軍事集団の久米部(来目部)の伝承歌舞に起源し、宮廷儀礼化したものです。平安時代にも大嘗祭で奏されていました。歌詞は、『日本書紀』に神武天皇が大和乎定歌として収められている来目歌によります。中世に中絶しますが、文政元年(一八一八)に再興されて今日に至ります。明治十一年以降、戦前は毎年の紀元節にも奏されていました。今日では大嘗祭のみに奏されます。

五節舞は古来、天武天皇が吉野宮で琴を弾いたときに、天女が現れて舞ったという故事とともに伝えられている舞で、舞姫によって舞われます。平安時代には新嘗祭にも奏されましたが、現在は大嘗祭のみに奏されます。中世に中絶し、江戸時代にも再興が試みられていますが、現在の伝承は大正天皇の大嘗祭に再興されたものによります。

その他、『延喜式』等によると古例では大嘗祭の豊明節会に田舞、吉志舞なども奏されることになっていました。田舞、吉志舞は他の歌舞と同様に江戸時代に再興が試みられて

おり、明治撰定語にも記載されていますが(吉志舞は舞譜のみ)「登極令」には規程がなく、近代以降の大嘗祭では奏されていません。

なお大嘗祭用の歌舞は、現代では特別に企画された演奏会等で奏されることもありま

②饗宴で行われる舞楽

古例では即位礼及び大嘗祭には舞楽は行われていませんでしたが、明治時代の「登極令」では大饗二日目の「即位礼及大嘗祭後大饗夜宴ノ儀」に舞楽「萬歳楽」「太平楽」を奏することが定められました。「萬歳楽」は文舞、「太平楽」は武舞の代表例として選曲されたものと考えられます。「登極令」に基づく大正昭和の即位礼及び大嘗祭は京都で行われたため、大饗夜宴の儀の舞楽は二条離宮(現在の二条城)で行われました。平成の例では少し変更され、舞楽「萬歳楽」「太平楽」は即位礼の饗宴の儀(於宮殿)に四日間わたって、下記の参列者のもとに奏されています。今回は五月現在未定です。

平成二年十一月

十二日夜 饗宴の儀 舞楽 太平楽

参列者 外国元首、祝賀使節、三権の長、國務大臣等。上記の配偶者。

十三日昼 饗宴の儀 舞楽 萬歳楽

参列者 旧皇族・御親族、総理・國務大臣、衆参正副議長・議員、最高裁長官・判事、知事会会長、都道府県議会議長会会長等。

上記の配偶者(衆参議員を除く)。

十三日夜 饗宴の儀 舞楽 太平楽

参列者 衆参議員、道府県知事、都道府県議会議長等。

十四日昼 饗宴の儀 舞楽 萬歳楽

参列者 認証官、文化勲章受章者、海外日系人代表、民間関係者等。

十四日夜 饗宴の儀 舞楽 太平楽

参列者 元衆参議員、民間関係者等。

十五日昼 饗宴の儀 舞楽 萬歳楽

参列者 各省外局の長ほか公務員、市町村長会代表、市町村議会議長会代表、民間関係者等。

十五日夜 饗宴の儀 舞楽 太平楽

参列者 駐日大使、同配偶者等。

御譲位について

御譲位(退位)については近代以降に先例はなく、宮内庁公表の資料によると「退位に関する諸儀式については前例がないところ、平成大礼の儀式の枠組みを基本に、旧皇室祭礼令を参酌して行われてきた祭典の前例や、通常行われている儀式を参考とし、さらに、全体として肅々と静かに執り行うことを基本」として立案したとのことです。御即位とは異なり雅楽に特別のものはありませんが、以下に儀式を列記し、雅楽を含む儀式には同様に【雅楽】として注記しました。

平成三二年

三月十二日 賢所に退位及び

その期日奉告の儀【賢所】

(賢所に天皇が退位及びその期日を奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣

物を供する間・撤する間に神楽歌皇靈殿神殿に退位及びその期日奉告の儀【皇靈殿・神殿】

(皇靈殿神殿に天皇が退位及びその期日を奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

神宮神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に勅使奉遣の儀【御所】

(神宮並びに神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に退位及びその期日を奉告し幣物を供えるために勅使を派遣される儀式)

三月十五日 神宮に奉幣の儀【伊勢神宮】

(神宮に退位及びその期日を勅使が奉告し幣物を供える儀式)

神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に奉幣の儀【各山陵】

(神武天皇山陵及び昭和天皇以前四代の天皇山陵に退位及びその期日を勅使が奉告し幣物を供える儀式)

【雅楽】神饌を供する間、幣物及び神饌を撤する間に奏楽

三月二十六日 神武天皇山陵に親調の儀

(退位に先立ち、神武天皇山陵に天皇が拝礼される儀式)

【雅楽】神饌及び幣物を供する間・撤する間に奏楽

四月十八日 神宮に親調の儀【伊勢神宮】

(退位に先立ち、神宮に天皇が拝

礼される儀式)

四月二十三日 昭和天皇山陵に親謁の儀

【昭和天皇山陵】

(退位に先立ち、昭和天皇山陵に天皇が拝礼される儀式)

【雅楽】神饌及び幣物を供する間・撤する間に奏楽

四月三十日 退位礼当日賢所大前の儀

【賢所】

(退位礼の当日、賢所に天皇が退位礼を行うことを奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

退位礼当日皇霊殿神殿に奉告の儀

【皇霊殿・神殿】

(退位礼の当日、皇霊殿神殿に天皇が退位礼を行うことを奉告される儀式)

【雅楽】御屏の開閉の間、神饌及び幣物を供する間・撤する間に神楽歌

退位礼正殿の儀

【宮殿】

(退位を広く国民に明らかにするとともに、天皇が退位前に最後に国民の代表に会われる儀式)



風俗舞

(1ページ3段最終行より)

て雑草の生育を妨げる試みです。ヨシの地下茎が地下2m余のところにあるので、厚さ20cmほどの木材のチップは、ヨシの生育には影響を与えずに、雑草だけ成長を抑えられヨシの生育環境を良くすることが出来るというものの。

3月に木材チップを敷いて、その後、どの



高速道路建設工事川沿いの橋脚の場所
基礎工事の杭を打ち込んでいる。2019年5月9日

ようになつていくかを知りたくて、5月9日上牧実行組合の木村和男さんにヨシ原を案内していただきました。

ヨシ原に入ると、そこはウグイスが鳴き、ヨシは1メートルほどに成長していました。

木材チップを敷いて

ヨシ原を進むと高速道路の杭を打ち込む作

業が続いていまし

た。その横を通り、木材チップの敷いてある場所に向か

います。

前回案内していただいた3月4日

は、遠くからでも木材チップの敷い

てある場所が分かりましたが、すでに背の高さあたりまでヨシやオギ、つる草に雑草が生

い茂り、どこに木材チップが敷かれたのか、さっぱりわかりません。

案内していただく木村さんの後ろについてヨシをかきわけて中に入っていくと、「ここ

が木材チップを敷いたところですよ」と教えていただきました。

木材チップを敷いた一角だけは、なんとつる草や雑草は生えていないのです。オギも生

えていない。



木材チップを敷いた箇所 雑草などは生えていない。2019年5月9日撮影



今年3月に木材チップを敷く
2019年3月撮影

えています。ヨシは生きいきと元気よく育

つている。そして太いようにも思えます。つる草や雑草が生えていませから、地面が見えるのです。

木村さんに「木材チップを敷いたところには、雑草やつる草は生えてきていませんね。この実験は成功ですね」と話しますと、木村

さんは「まだ、秋になつてどうなつているかを見てみないと何とも言えない。だが5月に雑草やつる草が生えてきていないので、うま

くいく希望が持てますね。この木材チップの方法が上手くいけば、来年は木材チップを敷く範囲を広げていきたいですね」とも話され

ました。

木材チップを敷いた所と、敷かない所の境目 敷かない所は雑草などが生えている。



木材チップを敷いた所と、敷かない所の境目 敷かない所は雑草などが生えている。

つる草がヨシに

からまり付く

木材チップを敷いていない所は、つる草がヨシにからまり付いています。夏になるとヨシを押し倒してしまうのでしょうか。ヨシにからまりついたつる草を抜こうと思ひ引張りましたが、とてもとてもからまり付いたつる

草を抜くことは至難のことと思いました。つる草の多い一帯は、秋になる頃は、つる草に押し倒され、昨年見たような状況になるのだらうなど、無念の気持ちがいってきます。



ヨシにからまり付くつる草

今年もまたつる草が……

ヨシ原を歩いていると、やはり雑草が生い茂り、ヨシを見つけてもつる草がしっかりと巻き付いているところも多い。



5月なのにすでに雑草やつる草がヨシにからまりついている。

地元の方へ感謝

筆業用ヨシの復活へ向けて

今回、ヨシ原を見学して、木材チップを敷いた一角は、私の想像以上にヨシは元気に育

っていた。このまま雑草が生えてこない事を願うばかりです。

そして同時に、地元の方をはじめ関係者の方々の地道な努力と苦勞に本当に頭が下がりが感謝の念がわいてきます。

筆業の蘆舌として、この上牧・鶴殿ヨシ原のヨシをいつ頃より使うようになったか分からないようだが、江戸時代元禄3(1690)年に書かれた『衆家録』には「筆業の蘆舌は古くから摂津の国鶴殿の地に生えるところの蘆を用いる」と、さらに小さい字で「故実なり」ともあるので、江戸時代より以前からこのヨシ原のヨシを使っていたと推測されます。

また江戸時代、寛政10(1798)年刊行の『摂津名所図会』には、「鶴殿村の堤に生い出づる蘆なり。筆業の義臂に可なり」と、むかしより世に名高く、貢に献るなり」と書かれており、ヨシが貢物として献上されていたことが分かります。

さらに明治時代になり「鶴殿の芦の刈り取りを願ひ出た」と宮内省の記録(1871(明治4)年2月)に記されています。

大正時代に刊行の『大阪府全志』の「大字鶴殿」の項には「特に本地の蘆は筆業の簞に最も適するを以つて之を貢献し、古来独り其の名を擅にせり」とあります。

地元の方々をはじめ多くの関係者の方々の努力によって、江戸時代よりはるか昔から雅楽の音色が現代まで伝えられている事をしみじみと感じ、感謝の念を抱きながらヨシ原を後にしました。(鈴木治夫)

新しい視点から雅楽を語る(2)

対談 安富歩 東京大学教授
ベートーベン「運命」

暴力ハラスメントからの離脱
○(鈴木) 前号での「魂の音楽・雅楽」というお話しの中の、クラシックについても少しお聞かせいただけませんか。

○(安富) そうですね、前号でベートーベンの運命交響曲がクラシック音楽の原理を提示したと述べました。この「運命」の曲からクラシック音楽は始まったと言えます。そこで少しクラシック音楽について話してみたいと思います。

この「運命」は子供の時からよく聞いていても感動していました。それが何を表現しているのか分からなかったのですが、ベートーベンの書いた曲のような、すぐれたものはその人の人生観や世界観が表現されていますし、それだからこそ聞いている人に感動を与えるものだと思います。

ベートーベンの生きた近代という時代は、直接的な暴力から、間接的な暴力へ発展した時代だと思っています。イギリスやフランスの産業革命の時代、蒸気機関車、化石燃料による搾取、植民地による搾取の時代、児童も労働させられて、フランス革命、ナポレオンによる侵略などの時代。

そのような時代にベートーベンの「運命」が作曲されました。そして私の研究テーマでもある「魂の脱植民地化」を考えると、このベートーベン

の「運命」の出だしの、ジャジャジャジャー、ジャジャジャジャーと始まる曲ですね。この曲は、暴力ハラスメントを表しているのではないかと思ったりまして、そしてさらにこの曲を聞いてみると、驚くほどハラスメントを表現している事に気が付いたのです。

近代の特徴は、暴力がシステム化されると暴力を振るわれてる事に気が付かなくなる。これが近代の特徴で、ベートーベンは、この暴力に敏感に反応して、「殴られているよ」「みんな殴られているよ、みんな聞いて」というベートーベンの魂の叫びが曲になっている。

ですからベートーベンの「運命」第五番がどういう音楽かと言うと、人間の魂の抵抗を描いていて、第一章はハラスメントを受けつつ描いていて、第二章はハラスメントに掛った生活を描いている。第三章はハラスメントを受けた苦悩と葛藤を描いている。第四章はハラスメントからの離脱を描いていると思っています。

ベートーベンの「運命」は、抑圧からの勝利を描いています。最終楽章で元気になる。このクラシック音楽は、第一次世界大戦で終わります。第二次世界大戦になると全世界の人類が一瞬で死んでしまう時代に入ってしまった。暴力が世界を覆うようになると、人間の魂を描くことが出来なくなり、ただただ暴力そのものを描くしかできなくなってきた。それが現代音楽へと続いていきます。

(つづく)

「雅楽の練習をしていたら

石を投げ込まれた」

鈴木治夫

「雅楽の練習をしていたら、家に石を投げ込まれた」という文章を数十年前に読んで、とてもショックで驚きでした。「雅楽の練習をしていて、石を投げられる」とはいつたい何故だろうかと。読んでいたのは1931年（昭和6年）6月に発行された「雅楽同志協会月報第一号」、これを書いたのは雅楽同志協会主宰の近衛直麿です。そこには「世間は余りにも雅楽に無理解です。ただ雅楽とだけ云ったのでは分からない人の方が多く、手を尽くして」説明した挙句「あ、あのお葬式の時のピーピーですか、なにも貴方方があんなものをやらなくてもいいでしょう」なんて意見される位がオチです。先日も陵王や還城楽などの総練習をやっているといずれ、やかましいという意味でしょう。私の宅へ石を投げ込むやつがいるかと思うと、又何かお祭りでもやっているかと勘違いしたものが、門前で拝んでいる御仁をも目撃しました。」と。

兼常清佐

「世の中で一番発達した音楽は西洋の音楽
西洋の音楽こそ 若い日本人の音楽
古い日本の音楽は 異国の音楽」

数か月前、知人が、「おもしろいから」と1927（昭和2）年に文芸春秋社より発行された小学生全集の中の『音楽の話と唱歌集』

（兼常清佐著）を貸してくれた。今の中学生高学年（当時の高等小学校高学年）向けに書かれた音楽の本で漢字にはすべてルビが振ってある。そこには

「この世の中で一番発達した音楽は西洋の音楽である。西洋の音楽ほど大仕掛けで、そして秩序が立って、その上美しく、面白くて、そして内容が多くて深いものは決して他にはない。諸君が音楽を楽しむなら、西洋の音楽を楽しむに越したことはない。諸君も今さら、日本の箏や三味線などを弾いて見る気にはなれまい。これから先の日本人の音楽は断じて西洋の音楽である。」（P14）

「諸君！（略）明治維新の時代から、だんだん西洋の音楽と、西洋の楽器が入ってきて、60年後の今日では、その西洋の音楽も、かなり一般に広まって来た。今日では、ピアノやヴァイオリンも、或は日本の楽器だと言っているいかも知れぬくらいである」（P35）

「若き読者諸君！ 私はこれから諸君に西洋の音楽の話をしよう。西洋の音楽こそ、実は若い日本人のための日本の音楽である。古い日本の音楽は、実に諸君のためには異国の音楽である。」（P44）

「（略）西洋の音楽は親しみやすい。音が多くてはれやかで、耳に聞いて面白い。（略）何から何まで西洋の学問で教育せられている諸君に、ひとり音楽だけは日本の古い三味線で満足していき、というの、それは無理である。」（P45）

兼常は15、16歳の少年少女に向かって「西洋音楽はすぐれている。日本の音楽は劣っている」と呼びかける。

呼びかけだけで終わるのではない。さらに兼常は「専門の学問といえば、哲学でも、理学でも、工学でも、何でも大抵は西洋で出来たものである。もし「我輩は日本人であるから、断じて西洋の真似なんかしない。」といううな人があつたら、その人は今の世の中に、ほとんど何一つできないで、死んでしまふであろう」（P14）とまで書く。「西洋の真似をしない人は、何も出来ずに死んでいく」と言い切るのである。

近衛直麿宅へ石を投げた理由は、もしかしたら「日本音楽を演奏しているものは、何も出来ずに死んでいく人かわいそうな人、だから石でも投げて忠告してあげないと」思っていたかもしれない。

学校での音楽教育は現在も西洋音楽一辺倒、兼常の考えと同じではないか、と思えてくる。そして学校の音楽教育を受けた人は「西洋音楽は世界で一番すばらしい」と大なり小なり「刷り込まれて」いく。

兼常清佐

雅楽の五線譜化

「つまらない音楽だけと博物館に保存」

兼常清佐と近衛直麿との雅楽の五線譜化を巡つての論争は、知っていたが、どのような考え方によつてこの論争が進められたのかは、知らなかった。

兼常は同書で「どんなつまらないものでも、昔あったものは、いつまでも保存して置かななくてはならぬ。（中略）昔の日本人はこんな音楽をやっていた。という事を、長く後世の歴史に伝えなくてはならぬ。昔のものを亡ぼしてしまうのは、物のわからない野蛮人である。」（P14-15）

そして「（保存の仕事は）別にそれ専門の人にまかせて置けばいい。決して若い諸君の知った事ではない」（P15）とも書く。

雅楽の五線譜化について、兼常は「つまらない音楽だけと博物館には保存しておけ」という姿勢、近衛直麿は「雅楽は素晴らしい音楽だから、世界中の人にも、後世にも伝えられるように五線譜に」という姿勢。視点が真逆なのだから採譜の方法も自ずと異なってくる。論争は平行線をたどるだけとなる。

近衛秀麿 昭和6年

「越天楽」をモスコイで演奏 大好評

近衛直麿が「石を投げられた」と書いた同じ年の昭和6年1月25日、兄である近衛秀麿は、モスクワでオーケストラの指揮をする。冒頭の曲は弟の直麿と編曲した「越天楽」。奏者は全てロシア人、客席も2千名以上ロシア人で満席。「越天楽」は大好評をうけた。

近衛秀麿は、この様子を昭和6年4月9日付の大阪朝日新聞に次のように書いている。

「モスコイ日記抄 大管弦楽を指揮する迄 近衛秀麿」 愈指揮台に立つ

（略）夜の演奏会の切符は約10日前発表と同時に売切れてしまったのだそうだ。二三千を容れる音楽学校の大講堂は満員、実に熱狂的な聴衆だ。指揮台に立った僕は背後に最も理解ある聴衆のあることを感じた。これは演奏者にとって重要な好条件である。首席のツエイトリン教授、それから管の独奏者達としばらく話をした後、おもむろに演奏を開始する。

感激の「越天楽」

第一部では、いうまでもなく新しく編作し

た雅楽「越天楽」が大うけにうけた。「ピース、ピース」という叫び聲に、足ぶみまでしばらく鳴りも止まなかった。曲目が全体として随分長いので、アンコールせずに休憩に入る。楽譜は実に便利なインターナショナルな言語だとつくづく思った。ここモスコでソビエ

ット治下のロシア人の音楽家が古代日本の宮廷音楽を皆で打興じて弾いているのを見て、指揮しているながら、一種不可思議なことのようにはさえず思えてきたのである。(一月25日)「近衛秀麿が、兄弟で五線譜に編曲した越天楽をロシアの演奏家が楽しそうに演奏し、ロシアの人たちがそれを聴いて感激し喜んだ様子が文章から伝わってくる。

近衛秀麿の「越天楽」について、『戦いのマエストロ 近衛秀麿』(菅野冬樹著 2015年 N H K出版)では次のように書いている。

「越天楽」の欧州での初演は、秀麿の指揮で1930年(昭和5)12月にチェコのプラハ放送で行われ、また日本初演は翌31年2月、新響との演奏会で行われた。(中略)しかしその年の7月22日に、長患いをしていた直麿が32歳の若さで他界。秀麿は弟への哀悼の意と、日本人指揮者としての存在感を表す名刺代わりの曲として、「越天楽」を海外でのプログラムに加えていく。1934年から1943年までの10年間に秀麿は「越天楽」を57回演奏している。秀麿が欧米で、世界的な音楽家たちと交流し、名だたるオーケストラの指揮台に立てた背景には、自らが日本人であることを国際的にアピールできる、「越天楽」があったことも要因の一つと言えよう。

余談ではあるが、現在、「日本のコンテンツを世界に流通させよう」などと、国が唱えているが、秀麿の活動を見れば、いま日本が行うべき「王道」が見えてくるのではないだろうか。(P125)

「弟の直麿と共作した「越天楽」は、現代の日本人には単調で退屈な音楽だと思われがち、だが、欧米の聴衆にはかなりの衝撃を与えている。東洋の精神文化への憧れを持つ人がまだ少なかった時代、雅楽の響きは新鮮に感じられたに違いない。当時の演奏批評などでは、最上級の評価が与えられている。秀麿は決して「西洋」に迎合することなく、日本人であることを忘れなかった。それが、国際的な指揮者としての地位を確立した最大の要因だったのではないだろうか。自国の文化へのこだわりが、国際人としての近衛秀麿をつくり上げたことには、今を生きる私たちも学ぶべき点が多いだろう。」(P268)

この本は又、近衛秀麿については、命を賭けてヒットラー政権下でユダヤ人音楽家の救済も行っていた事を豊富な資料を基に明らかにしている。(「雅楽だより」43号参照)

多忠龍
ストコフスキー

「こんな音楽が千年も前にあったのか」
楽家で戦前宮内省楽部で活躍し、芸術院会員でもあった多忠龍は、『雅楽』(1942(昭和17)年 六興商会出版部発行)の中で近衛秀麿が、欧米で「越天楽」を演奏し、大好評を受けていると書いている。

「秀麿さんの弟さんの直麿さん、このひとが大変雅楽に熱心な方で、自分でも雅楽をや

ったり、「雅楽同志協会」という会をつくって研究をしたりしていましたが、「越天楽」は、この直麿さんが西洋楽の譜に直したものを、秀麿さんが手を入れて演奏したので、あの秀麿さんの「越天楽」は雅楽の「越天楽」そのままと言っているものなんです。この「越天楽」を秀麿さんがアメリカへ持って行って演奏したことがある。そうすると、ストコフスキーという、アメリカの有名な指揮者だそうですが、この男がこれを聞いて、大変に関心した。ことに、「越天楽」のすばらしい構成にはまったく驚いて、こんな、音楽が千年も昔にあったのかと、なかなか信用しなかったと言われているのです。

雅楽というのは、つまり、こういう音楽なんです。いはば、世界中の大昔の音楽の粹をひとつに集めたもので、しかも、それが今日の時代の音楽に、ひけを取らないという、こういう音楽なんです。だからして、私は大いに自慢しているものだと思っている。ただ、よく、人が言うことだが、雅楽には西洋の音楽のような変化はない。これは変化がないのが当然で、もともと千三百年前の音楽をそのまま保存するというのが、雅楽をもちたててきた人達の建前だったし、また、そのところには雅楽の値打ちがあるのじゃないかと思う。(中略)素人の方が単調だと思ってしまう。かえって雅楽の複雑な味がある」(P27-29)と。

この中に出てくるストコフスキーは、雅楽のもつ日本古来の神秘的なハーモニーに触発・影響され、フィラデルフィア管弦楽団の演目に「越天楽」を入れ、レコーディングま

でしている。

戦前のアメリカでアメリカの楽団が演奏し、レコードにまでできているということは、日本の音楽がアメリカでも通用するということの証明でもあろう。

黛敏郎

雅楽 完成された音楽

悠久無辺の大きさ

戦後となった1972年、黛敏郎は、「雅楽の超時代性について」(『雅楽界』50号 昭和47年5月 小野雅楽会発行)と題して雅楽について書いている。

「雅楽が、現今のようなかたちで完成されたのは平安朝だといわれているが、考えてみると、これは驚くべきことである。

三管・三鼓・二絃・笛と箏がヘテロフォニー(同一の旋律を、アレンジしながら、同時に進行するもの)による旋律を奏し、笙がその上方から密集位置のハーモニーをもつて支える。琵琶と箏のアルペジオ(和音をばらして一音一音発音させる演奏法。単に和音をポロロン(ジャラーン)と流して弾く場合もアルペジオと呼ぶことがある。)がいろいろリズムの流れに、太鼓と鉦鼓がアクセントをつけ、それら全体を鼓が主導する、というこの合奏形式は、それぞれの楽器の特性を最高に生かしつつ、しかも音楽表現に不可欠な要素を何一つ欠くことのない、まことに完璧なものだ。

千年以上も昔に、このような完成された音楽を持っていた民族は、世界広しといえども恐らく無かったに違いない。」(P51-52)
「古代歌謡の音階は、外来楽器固有の音階

と合わない。合わせるために採るべき方法は二つあった。一つは歌を楽器に合わせて多少変えることであり、もう一つは、笙のようにピッチの変更が不可能な楽器は別として、笛や箏のような多少のピッチの高低が容易な楽器を歌のメロディーに合わせて吹くという方法である。

ところが、当時の人たちは、そのいずれの方法も採らなかつた。そして第三の方法、つまり、合わない音を合わないまま衝突させるという方法を選んだのである。このような現象は、催馬楽でなく純粹雅楽でも見られるところだ。笛と箏、あるいは笙と箏のヘテロフォニーの随所——とくにFとF[#]、CとC[#]——に現れる鋭く衝突する短二度の音、避けようと思えばいくらで避けられる筈の不協和音を、意識的にそのまま残して置いたということは、われわれの祖先が原始的な鈍い音感を持っていたからではなくて、逆に、そうした微妙な音程のズレから生じる味わいを楽しむことのできる高度に研ぎ澄まされた美感を持つていたからではなからうか。

とにかく、こうして雅楽の様式は確立された。それが平安朝から現代まで伝承されてくる間には、多少の変遷もあったと想像されるが、少なくともハッキリした記譜法が抛り所となつていたし、伝承が特別な楽家の一子相伝を守つてきた関係上、われわれが現今の形を以つて平安雅楽と殆ど大差ないものと認めても、それ程の誤りはなからう。

そして、その音楽様式は驚くほど現代的なのだ。ドゥビュッシーが、笙のハーモニイに靈感を得て、その特殊な多和音様式を創案し

たのではないかという説もあるほどだ、笙の合竹による和音構成は近代的である。いや、それはむしろ和音というヨーロッパ的概念から作りだされた響きではなくて、主旋律に豊かな共鳴空間を与えつつ時の推移と共に微妙に変化する複合音の帯であり、二十世紀後半の現代音楽の主流を占めつつあるトーン・クラスターの概念に極めて近い。

このような音の捉え方が、千年の昔に創案されてきたという驚きは、実は近代ヨーロッパ的な音楽の見方に毒された偏見であり、むしろ、この方がより音楽の真の姿に近く、ヨーロッパ流の機能相和や合理主義的リズム構成の方こそ、僅々ここ二、三世紀の産物であり、派生的なものなのだという考え方を私は採りたい。

つまり、近代ヨーロッパの音楽が、行き詰つたからこそ、改めてここに雅楽の持つ悠久無辺の大きさや、自然発生的エネルギーが見直され始めたのだ。

黛敏郎は雅楽の持つ音楽性を世界の音楽の中にはつきりと位置づけるとともに、近代ヨーロッパ音楽が行き詰つた中から、雅楽の持つ音楽の真の姿や、悠久無辺の大きさが見直されてきていることを熱く語っている。

小泉文夫

オーケストラは奴隸的音楽

今の社会のいちばん非人間的な面を

表している

黛敏郎が書いた翌年、小泉文夫は『おたまじやくし無用論』（1973年5月初版、1980年再版）を出版した。そこには「オーケストラは奴隸的音楽」という項を設けて、

オーケストラの弊害について述べている。

「オーケストラは奴隸的音楽

オーケストラのように百人もの人間が、たった一本の指揮棒に従つて一糸乱れぬ演奏をしなければならぬ形式は、いうなれば奴隸的音楽です。現代社会でこのような音楽を奨励すべきかどうか、私はたいへん疑問を感じるのである。けれども、オーケストラは、ある意味では皮肉にも現代社会そのものを象徴しているのです。なぜならば、現代のような管理社会では、工場製品はすべて機械の型にはまつて次々と出てきます。そして、製品は規格通りに正確にできていなければなりません。その中の一つとして型破りや色の違うものがあつては困るのです。个性的であつてはいけません。

オーケストラも全く同じことで、第一バイオリンの中に、一人でも勝手なメロディーを弾くものがあることは許されません。そういう意味で、奴隸的音楽の形式をもつたオーケストラの存在は、現代社会への手きびしい風刺であるとも言えましょう。

また、今の社会は、あらゆるところで、人間が人間であることを許しませんから、せめて音楽は人間らしさを取り戻すものでなければならぬと私は思うのです。ところがオーケストラの場合は全くその反対です。

例えば工場でさんざん型にはまつた仕事をして来た人々が疲れたから、音楽でも楽しもうと思つてオーケストラを聴こうとします。彼らは満員電車にぎゅうぎゅう詰めになされて、やつこの思いで演奏会場にたどり着きます。そこで目の玉の飛び出るほどの高い入場

料を支払つたのに、ここで人々は気ままに人間らしく振る舞うことはできません。咳払い目でも、あくびをしても、まわりからこわい目でにらまれます。すばらしい演奏だからといって立ち上がつて大声で叫びながら拍手するなどもつてのほかです。

音楽が始まつてから終るまで、息を殺して水を打つたようにシーンと静かにしていなければなりません。その窮屈さと来たら、およそ人間のなものは、正反對です。(略)しかしオーケストラの楽員は、「決められた曲を書かれた通りに棒の相図で弾かされていよう」という感じがぬぐえません。そういう点でもオーケストラは、今の社会のいちばん非人間的な面を表しています。(P45-46)

小泉文夫は黛敏郎とは別の視点から西洋音楽と日本音楽について、また音楽そのものについても語っている。

小泉文夫

インテリであるほど無知・無関心

小泉文夫は、その3年後1976年に『日本音楽の再発見』(対談 團伊玖磨・小泉文夫 発行講談社現代新書)を出版した。そこで小泉文夫は

「なぜ西洋音楽を教育の基本とするのかある民族の音楽文化は音楽だけでなりたつているものではなく、言葉とか、身体的運動とか、さらに自然環境、歴史的風土、社会的習慣など、要するに、その民俗文化全体と密接な関係の中で育つてきているはずなのに、そういうことをほとんど考慮せずに、明治以来、西洋音楽を基本とする音楽教育が、国家的な規模で行われてきました。」(P8)

「音楽教育を受けた日本人は、インテリであればあるほど自分たちの国の音楽について無知であり、また無関心です。欧米の音楽について大きな関心と愛着をもっているのに、自分の国の文化になると、とたんに背を向ける」(P8)と書いている。

團伊玖磨

西洋からの移植は枯れる

團伊玖磨は同書『日本音楽の再発見』の中で「ただか百年くらいの間に、よその国で咲いていたものをただ無秩序にもってきて、これが音楽だといった軽率な過去の人たち。それに盲従している現代の洋楽家たちはもつと真面目に考え直さないと、日本にある程度根づいた、いい意味での西洋からの移植のものまでもが枯れてしまおうでしょう。」(P48)と語っています。

菅野拓也

現代音楽としての雅楽

それから10年余り後、詩人で朝日新聞学芸部記者である菅野拓也の原稿「現代音楽としての雅楽」が『雅楽界』58号(1984(昭和59)年5月小野雅楽会発行)に掲載される。「ヨーロッパ音楽は久しく人間の情緒を歌いあげること使命としてきたが、二十世紀に至っては、人類が自らに失望する状況が生まれた。人間万能主義はくずれ、人間は人間を超えたものを求め始める。このことは芸術をさまざまな形で行き詰まらせた。

現代の音楽家が雅楽にひかれるのは、まさに雅楽のもつ古代的エネルギー、それは人間のこさかしさを超えた宇宙観、全く別な宇宙あるいは漠然たる自然の存在を、かもし出さ

れる音響によつて感知するからなのだ。

ひちりき、笙、龍笛の音色は、すでに人間の抒情の外にあり、したがって心を歌うものとは異質なものとして扱われてきた。が、いまや人間自身が人間を超越した音を求めるようになった。

このことは単に作曲家にとつての作曲上の行き詰まりを助けるだけのものではない。次第に聴衆も、この古く久しい音楽の原始的エネルギーを求めるようになったのだらう。」(P135)

「千数百年もの過去に存在した音楽(雅楽)が、あまりにも長い時間の中で少しも衰えずに燃え続けてきたとは、不思議なほどだ。」

菅野拓也も、雅楽の持つエネルギーや宇宙観、そして人間自身が人間を超越した音を求め、音楽の原始的エネルギーを求めるようになったのだらうと綴っている。

バーバラ・ルーシュ

明治政府によつて和楽器の世界に

もたらされた衝撃と影響が

いかに大きいものであったかを日本人自身が認識していない

「雅楽だより」にも原稿を寄せていただいている米国コロンビア大学名誉教授・中世日本研究所所長、バーバラ・ルーシュ氏は、昨年『邦楽ジャーナル』2018年7月号に「自己防衛の鎖国から脱却して」を寄稿し次のように書いている。

「(略)「日本には独自の音楽がないのでしようか?」彼(カーネギーホール、プログラム担当者)の言葉には雷に打たれたかのよう

な衝撃を覚えました。ニューヨークにある、おそらくは世界で最もよく知られたコンサートホールの専門家が、日本についてこのような印象、つまり「自らの音楽が存在しない」などという印象をもっているとは!同時に気付いたのですが、こんにち日本国外で活躍

中の日本人演奏家と言え、ピアノやバイオリンといった洋楽器の演奏家なのです。中国、スペイン、アイルランド、ギリシャなどといった多くの国々と比較すると、そのような状況は実に対照的なことです。」(P24)

と問題を提起し、現代の日本音楽の問題点を鋭く突いていく。

「尾を引く明治ショック
2018年(平成30年)は明治150年記念となる年です。明治のリーダーたちは欧米諸国による日本の植民地化を阻止すべく尽力しました。産業革命を経て近代化の進んでいた欧米諸国はインド、中国、東南アジアのあたりをすでに植民地としていたのです。結果、明治期の政策は近代化、すなわち西洋化に力を注いだわけですが、文化の側面においてはこうした政策はとてつもない打撃を与えることになり、後々まで大きな傷跡を残すことになってしまったのです。(略)

和楽器は洋楽器に比べて「原始的なもの」と見做され、学校教育においては「ハイテク機器」と見なされた洋楽器が優先されることになりました。以降140年ほどにわたって初等教育から高等教育にいたるまで日本人が学校で学ぶ音楽・楽器といえ、洋楽・洋楽器となったのでした。さらに、テレビやラジオでは現在でも洋楽が主流で、日本の伝統音楽

は二の次で洋楽がもてはやされ続けているのです。もちろん雅楽は宮内庁式部職業部によつて伝統が守られていますが、一般の日本人が雅楽を耳にするような機会はほとんどありません。雅楽器を学んだことがないという日本人がほとんどというのも当然の帰結なのです。(略)

世代が代わるとともに、和楽器の世界はますます日本人の生活から切り離されていくことになってしまいました。70歳くらいから下の世代の日本人で和楽器の生演奏を聴いたことがある人はほとんどいないことでしょう。問題は、明治政府によつて和楽器の世界にもたらされた衝撃と影響がいかに大きいものであったかを日本人自身が認識していないという現実です。(略)

私の目からみますと、和楽器の世界はその後20世紀を通じて、明治期に負った痛手からくる心的外傷後ストレス障害(PTSD)を患っているように思われます。個人レベルだけでなく、和楽器の世界全体として、また世代を越えてその症状が見受けられます。ここで強調したいのは、一政府のとる政策が文化にも深刻な影響を及ぼすのだということです。

心的外傷や屈辱感、恐怖心といったものは次の世代に。明治期の衝撃は明らかに和音楽の世界にPTSDをもたらしました。突如として自尊心を削がれ、生活の糧を失い、将来への不安、無力感、自らの国で絶滅の危機にさらされた少数派に陥る恐怖、自国の政府によつて洋楽に比べて「原始的で」「劣った」音楽と断定されてしまったのです。(略)
音楽の健全な発展に肝要なのは、音楽その

ものを心の底から愛し楽しむことです。奈良から平安、鎌倉を経て、その後江戸から現代にいたるまで(略)

自分の好みの音楽を即座にネットで視聴できる時代です。日本国外の人々は、和音楽の歩んできた歴史を知らないがゆえに何の偏見や先入観もなく和音楽に接することができま

す。日本が自信と誇りを取り戻し、和楽器を愛する世界中の音楽家に門戸を開いてくれるのを世界は待っているのです。新しい世代の演奏家や作曲家を心から応援しているのです。(P26)と。

夏〜秋までの主な雅楽演奏会など

近江神宮燃水祭 (滋賀)

7月5日(金) 午前11時
五節舞 出演 女人舞楽原生会
問合せ Tel.079-723-1886

今昔雅集集 七夕の宴 (茨城)

7月6日(土) 午後5時
水戸芸術館コンサートホールATM
3500円 1000円(ユース)
芝祐靖復曲 伎楽(行道乱声 獅子 迦楼羅)
伊左治直作曲 紫御殿物語・鳥瞰絵巻
舞楽 青海波 蘭陵王 落躑
演奏 伶楽舎

問合せ Tel.029-231-8000
第46回 雅楽セミナー (大阪)
極楽浄土信仰と雅楽のコスモロジー

7月10日(水) 午後6時半
津村ホール(北御堂内) 往復はがきで申込み
講演 小野真龍 天王寺舞楽協会常任理事
舞楽 迦陵頻 演奏 天王寺楽所(以和貴会)
主催 天王寺楽所(以和貴会)・雅亮会ほか
問合せ Tel.06-6641-0084

大人のための声明入門 (東京)
チケットプレゼント有り
7月20日(土) 午前11時
3000円(学生2100円)
国立劇場小劇場
声明について 鑑賞 蛙の声明
体験コーナー有
出演 迦陵頻 伽声明研究会ほか
茂手木潔子(進行)
問合せ Tel.0570-07-9900

大人のための雅楽入門 (東京)
チケットプレゼント有り
7月20日(土) 午後2時半
3000円(学生2100円)
国立劇場小劇場
「越天楽」で知る雅楽
舞楽 右方 還城楽
体験コーナー事前申し込み 出演 伶楽舎
問合せ Tel.0570-07-9900

西宮神社夏祭 (兵庫)
7月20日(土)
午後7時半〜8時半(2回)
舞楽 萬歳楽 胡蝶
出演 女人舞楽原生会
問合せ Tel.0797-23-1886
子どものための雅楽コンサート2019
〜雅楽つてなにあに〜 伶楽舎 (東京)
7月27日(土) ①午後1時 ②午後4時
子ども500円 大人1500円(前売
1000円) 千日谷会堂
管絃 越天楽 舞楽 落躑

芝祐靖脚本・作曲 ポン太と神鳴りさま
問合せ Tel.03-3200-9755
神明雅楽 (東京)
7月28日(日) 午後6時
下神明天祖神社境内
舞楽 振鈴二節 右方・古鳥蘇 左方・陵王
演奏 雅楽道友会
問合せ Tel.03-3783-2371

篝の舞楽 四天王寺 (大阪)
8月4日(日) 午後7時 鑑賞料1千円
四天王寺伽藍内 講堂 前庭
舞楽 振鈴(合鈴) 北庭楽 安摩・二ノ舞
蘭陵王 長慶子
演奏・天王寺楽所(以和貴会)
問合せ bunkazai@shitennoji.or.jp
天王寺舞楽協会事務局

御鎮座記念祭 雅楽の夕べ (宮城)
8月12日(月) 午後6時半
大崎八幡宮
老君子 青葉の舞 其駒 萬代の舞 長慶子
他 演奏 伶楽舎
問合せ Tel.022-234-3606
第8回 雅楽の夕に、一緒に雅楽を(宮城)
〜東日本大震災復興祈念〜
8月13日(火) 午後4時
大崎八幡宮
演出 拾翠楽 越殿楽 早費多々良 青葉の舞
舞 合歌塩 抜頭 嘉辰 越殿楽 萬代の舞
演奏 伶楽舎
問合せ Tel.022-234-3606
中元万燈籠 春日大社 直会殿 (奈良)
8月14日(水) 午後6時30分ごろ
舞楽 甘州 演奏 南都楽所
問合せ Tel.0742-22-7788
富岡八幡宮大祭奉納 (東京)
8月15日(木) 午後2時半
舞楽 迦陵頻 胡蝶 陵王 貴徳

演奏 多度雅楽会
問合せ Tel.03-3630-0038(田中)
春日山盆灯会 (福岡)
8月15日(木) 午後7時
正行寺春日山雅楽御堂(福岡県春日市)
曲目未定 演奏 筑紫楽所
問合せ Tel.092-596-8585

戸部杉山神社「雅楽の夕べ」(神奈川)
8月20日(火) 午後7時
演目 未定 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-332-1532
雅楽松風会第一回演奏会 (岐阜)
〜御代替わり奉祝〜
8月24日(土) 午後1時半 前売り 3千円
当日3千5百円
岐阜市文化センター1
管絃 黄鐘調 海青楽 拾翠楽 残楽三返
特別演奏 人長舞 其駒
舞楽 太平楽一具
演奏 雅楽松風会 客演 池邊五郎師
問合せ Tel.090-7611-9719
神明雅楽 (東京)

8月25日(日) 午後6時
下神明天祖神社境内
舞楽 振鈴二節 他 未定
演奏 雅楽道友会
問合せ Tel.03-3783-2371
住吉大社観月祭 奉納舞楽 (大阪)
9月6日(金) 午後7時より
住吉大社反橋上
曲目未定 演奏 天王寺楽所
仲秋管絃祭 日枝神社 (東京)
9月13日(金) 午後6時 3000円
演目 太食調 音取 合歌塩 朗詠 嘉辰
抜頭 神樂舞 他
問合せ Tel.03-3581-2471
伊勢神宮 観月会 (三重)

8月25日(日) 午後6時
下神明天祖神社境内
舞楽 振鈴二節 他 未定
演奏 雅楽道友会
問合せ Tel.03-3783-2371
住吉大社観月祭 奉納舞楽 (大阪)
9月6日(金) 午後7時より
住吉大社反橋上
曲目未定 演奏 天王寺楽所
仲秋管絃祭 日枝神社 (東京)
9月13日(金) 午後6時 3000円
演目 太食調 音取 合歌塩 朗詠 嘉辰
抜頭 神樂舞 他
問合せ Tel.03-3581-2471
伊勢神宮 観月会 (三重)

8月25日(日) 午後6時
下神明天祖神社境内
舞楽 振鈴二節 他 未定
演奏 雅楽道友会
問合せ Tel.03-3783-2371
住吉大社観月祭 奉納舞楽 (大阪)
9月6日(金) 午後7時より
住吉大社反橋上
曲目未定 演奏 天王寺楽所
仲秋管絃祭 日枝神社 (東京)
9月13日(金) 午後6時 3000円
演目 太食調 音取 合歌塩 朗詠 嘉辰
抜頭 神樂舞 他
問合せ Tel.03-3581-2471
伊勢神宮 観月会 (三重)

8月25日(日) 午後6時
下神明天祖神社境内
舞楽 振鈴二節 他 未定
演奏 雅楽道友会
問合せ Tel.03-3783-2371
住吉大社観月祭 奉納舞楽 (大阪)
9月6日(金) 午後7時より
住吉大社反橋上
曲目未定 演奏 天王寺楽所
仲秋管絃祭 日枝神社 (東京)
9月13日(金) 午後6時 3000円
演目 太食調 音取 合歌塩 朗詠 嘉辰
抜頭 神樂舞 他
問合せ Tel.03-3581-2471
伊勢神宮 観月会 (三重)

8月25日(日) 午後6時
下神明天祖神社境内
舞楽 振鈴二節 他 未定
演奏 雅楽道友会
問合せ Tel.03-3783-2371
住吉大社観月祭 奉納舞楽 (大阪)
9月6日(金) 午後7時より
住吉大社反橋上
曲目未定 演奏 天王寺楽所
仲秋管絃祭 日枝神社 (東京)
9月13日(金) 午後6時 3000円
演目 太食調 音取 合歌塩 朗詠 嘉辰
抜頭 神樂舞 他
問合せ Tel.03-3581-2471
伊勢神宮 観月会 (三重)

9月13日(金) 午後6時頃より
外宮 勾玉池 舞楽 曲目未定
問合せ Tel.0596-24-1111

下鴨神社 名月祭 (京都)
9月13日(金) 午後6時
舞 白拍子 萬歳楽 蘭陵王 予定
演奏 平安雅楽会

横浜三溪園 観月会 (神奈川)
9月14日(土) 午後6時15分
演目 還城楽 ほか 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-332-1532

石清水八幡宮 石清水祭 (京都)
9月15日(日)
午前8時 放生会舞楽 胡蝶
午前10時 蘭陵王 納曾利
演奏 平安雅楽会

問合せ Tel.075-981-3001
秋季神楽祭 伊勢神宮 内宮神苑 (三重)
9月22日(日)、23日(月)、24日(火)
各午前11時
舞楽 曲目未定

問合せ Tel.0596-24-1111
富岡八幡宮 雅楽の夕べ (神奈川)
9月22日(日) 演奏 横浜雅楽会
問合せ Tel.045-332-1532

春日山秋季彼岸会 (福岡)
9月23日(月) 午前10時
正行寺春日山雅楽御堂(福岡県春日市)
舞楽 曲目未定 演奏 筑紫楽所

問合せ Tel.092-596-8585
つくりもんまつりの雅楽 (富山)
9月23日(月) 午前11時〜 午後2時

雅楽の館(高岡市) 無料
管絃 越天楽 伊勢海(催馬楽) 甘州
演奏 洋遊会

問合せ Tel.0766-64-0390
兵主大社御鎮座1300年奉祝祭(滋賀)

9月28日(土)、29日(日) 午後1時頃
28日 萬歳楽 29日 五節舞
出演 女人舞楽原笙会

東京楽所「奉祝の雅楽」(山口)
9月29日(日) 午後2時 S席6千円
A席5千円 財団会員5百円引き
周南市文化会館 大ホール
管絃 平調音取 催馬楽「伊勢海」
越殿楽残楽三返 舞楽 萬歳楽 落蹲

主催 周南市文化振興財団
問合せ Tel.0834-22-8787
真言宗特別伝道 聲明と雅楽 (石川)
10月3日(木) 午後2時

津幡町文化会館シグナス
管絃 越天楽 朗詠 嘉辰 陪臚 ほか
演奏 洋遊会
問合せ Tel.076-242-2825

国際シンポジウムと天王寺舞楽公演(大阪)
10月6日(日) 午後1時半 1千円
事前申し込み既又はMailで 締切未定
四天王寺 五智光院

第一部 舞楽 解説あり
第二部 ハンブルクの舞台芸術について
主催 上町台地アートプロジェクト実行委員会
問合せ Tel.06-6777-5184

今宮神社 秋の大祭 (京都)

★読者チケットプレゼント★
★大人のための雅楽入門 7月20日
★大人のための声門入門 7月20日
★国立劇場小劇場 各2名様ご招待
7月6日必着 招待券を送付
応募資格・「雅楽だより」定期購読者
応募方法・はがきに希望の演奏会、住所、氏名、
電話番号など必要事項を記入。
応募先・〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6鈴木方
「雅楽だより」編集部

10月8日(火) 午後7時 人長舞
10月9日(水) 午前10時 東游
演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-491-0082

中部日本雅楽連盟第69回演奏会(名古屋)
10月9日(水) 午後6時半 無料
名古屋芸術創造センター
管絃 太食調 傾盃急 ほか
舞楽 八仙 春庭花 抜頭(右) 長慶子

問合せ Tel.052-241-7784
日向大神宮 例大祭 (京都)
10月16日(水) 外宮 午後2時
10月17日(木) 内宮 午後2時

御神楽 人長舞 演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-491-0082
野宮神社 斎宮行列 (京都)
10月20日(日) 午後2時

舞楽 抜頭 演奏 平安雅楽会
問合せ Tel.075-491-0082
「経供養」四天王寺 (大阪)
10月22日(火) 午後1時より

四天王寺太子殿前庭 曲目 未定
出演 天王寺楽所(以和貴会)
問合せ Tel.06-6771-0066

新刊 本・CD
○「吹いてみたい 箏篋」石黒賢著
1800円+税 里文出版
「私はこれまで中学生にどのように箏篋と
いう楽器に親しんでもらうか、いかに雅楽と
いふ難解な音楽を
分かりやすくかみ
砕いて教えるかを
考えて指導してき
ました。箏篋を扱
つて二十余年が過

吹いてみたい
箏篋
古今の音楽器・箏篋の魅力
「雅楽だより」編集部

きてここで広く一般の方にも、楽しく容易に
箏篋が演奏できるようにとの願いを込めて本
書を著しました。」(はじめに より)
問合せ Tel.03-5902-7281

○雅楽CD
「百花繚乱」
箏篋・楽箏・鳳
笙／春日るり子
チェロ／春日真菜
龍笛／メ野護元
鳳笙／豊剛秋 楽
琵琶／山田文彦

○双調調子○柳花苑○春庭花 ほか
定価2千円+税 発売 amazon
「雅楽だより」
購読・継続 申し込み方法
購読料一年(4回発行)二千円。(送料込)
郵便振込用紙に住所、氏名をご記入のうえ、
「口座番号」0014005-614032
「加入者名」雅楽協議会
までお振込みください。ご記入頂いた住所に
「雅楽だより」を送らせて頂きます。



「雅楽だより」第58号
2019年(令和元年)7月1日
発行 雅楽協議会
編集 雅楽協議会「雅楽だより」編集担当
連絡先 〒188-0013
東京都西東京市向台町6-12-6(鈴木治夫)
TEL.042-451-8898
FAX.042-451-8897
メール gankudayori@yahoo.co.jp
http://www.ganku-kyoukai.com/
印刷 日本プロセス秀英堂株式会社
雅楽の楽器・譜面 ほか

(株) 武蔵野楽器
〒114-0003 東京都北区豊島1-5-6
電話 03-5902-7281
Fax 03-5902-7282